次世代育成支援をめぐる現状と課題

課題1 子どもの日常生活リズムの確立

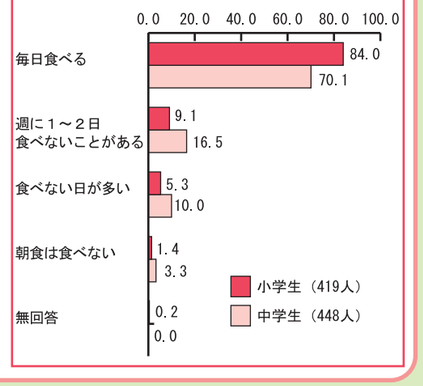
- 市内の小学５年生及び中学２年生のアンケート結果では、“食”のみだれが顕著に表れました。
- 保育関係者ヒアリングからは、既に乳幼児期から親の生活習慣にあわせた夜ふかしの習慣や、朝食をとらずに登園する子どもなど、生活のリズムが乱れているケースが多くみられました。

▶ “食”への関心を高め、幼少期から基本的な生活習慣を身につけさせる。

▶ 親自身も学び、「家庭の子育て力」を向上させる。

※「富里市次世代育成支援に関する実態調査」から

◆ 朝食のとり方 （単位：%）



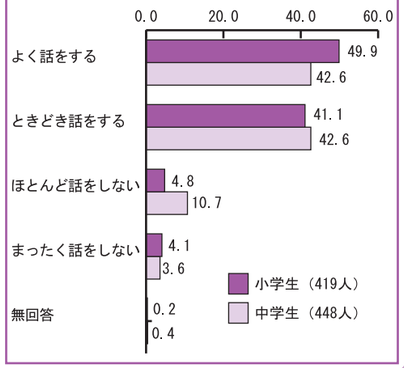
課題2 親と子のふれあい（コミュニケーション）場づくり

- 親子のコミュニケーションは、小・中学生のほとんどが“よく会話している”と回答する一方で、「ほとんど話をしない」や「まったく話をしない」とする児童生徒が１割を占めました。
- 家庭環境が複雑多岐になっており、子ども同士の人間関係も複雑化しています。

▶ 乳幼児期から思春期を通して、安定した親子関係を築くふれあいづくり。

▶ 父親の積極的な育児参加の促進。

◆ 親との会話 （単位：%）



課題3 多様化する保育ニーズへの対応

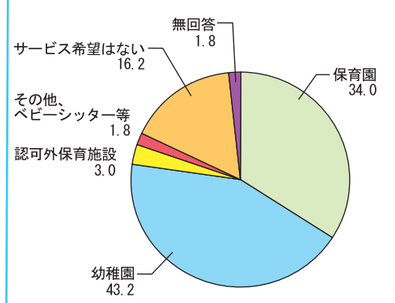
- 富里市の認可保育園は３園で定員は420人（平成16年４月１日現在）です。近年は、定員を上回って受入れを実施していますが、低年齢児を中心に待機児童がみられる状況です。
- アンケート自由回答では、幼稚園の預かり（延長）保育の充実や日吉台地区に保育園の整備を望む声が比較的多くあげられました。
- 小学生の放課後健全育成については、平成16年度に富里南小学校の余裕教室を活用し、新たに１か所設置したところですが、その一方で、既存の児童クラブについても、引き続き希望者が増加傾向にあります。

▶ 保育ニーズの増大・多様化に対応した保育園の受入れ体制の整備。

▶ 地域的バランスを考慮した保育園整備の検討。

▶ 放課後の子どもの安全な居場所を確保する放課後児童クラブの充実。

◆ 平日の保育の希望【就学前保護者】



（回答者総数：776人、単位：%）

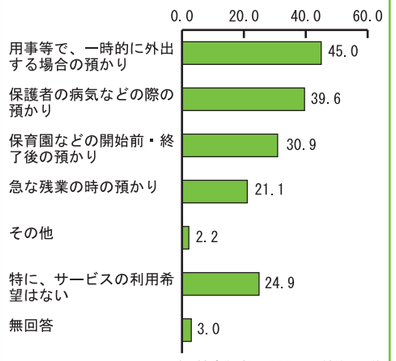
課題4 地域の特性に配慮した子育て支援策

- 現在、富里市では社会福祉協議会の「ボランティアセンター」がコーディネーターとなって、病気等で送り迎えが困難な母親等にかわり幼稚園の子どもの送迎などサポートするボランティアが活躍していますが、充実した制度として確立されている状況ではありません。
- 富里市は昭和50年代に急速に都市化が進んだ北部地域と、従来の純農村が残る南部地域において、市民の生活環境の評価や意向に大きな違いがみられます。

▶ 「ファミリー・サポート・センター」※の設立。

▶ 身近な公共施設・既存事業を最大限に活用した子育て支援の展開。

◆ ファミリー・サポート・センターの利用意向【就学前保護者】



（回答者総数：776人、単位：%）

※「ファミリー・サポート・センター」とは、子育てを手助けしてほしい人（利用会員）と、子育てのお手伝いをしたい人（協力会員）が会員登録し、ファミリー・サポート・センターのアドバイザーを介して、地域住民による子育ての相互援助活動を行う事業。

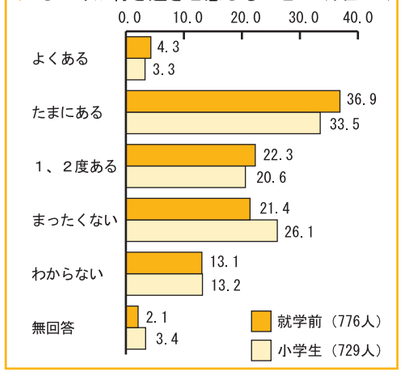
課題5 育児不安の解消に向けたきめ細かな対応

- 子どもへのしつけが行き過ぎたと感じることがあると半数以上の親が回答しており、中には「よくある」という親が１割弱を占めます。
- 全国同様に、本市においても“ひとり親家庭”が増加の一途をたどっており、比較的子育てに困難を抱えやすい状況にあります。

▶ 育児不安の解消に向けた情報提供と、気軽に相談できる体制づくり。

▶ 育児に不安を抱えやすい、ひとり親家庭及び外国人家庭、養育が困難である家庭等に対するきめ細かな支援。

◆ しつけが行き過ぎと感じること （単位：%）



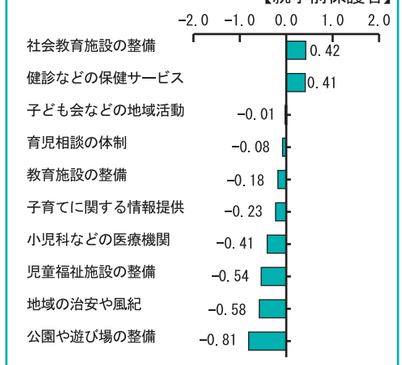
課題6 安全・安心に暮らせるまちづくり

- 子育て環境評価では「図書館などの社会教育施設の整備」や「健診などの保健サービス」などが高い一方で、「地域の治安や風紀」や「公園や遊び場の整備」などに不満があげられています。
- 治安や風紀に関しては、凶悪犯や知能犯など都市型犯罪や犯罪の低年齢化の傾向もみられます。また、急速に都市化が進み交通事故の発生件数も増加の一途をたどっています。

▶ いつでもどこでも安全・安心に遊べる遊び場の確保。

▶ 市民全員で、子どもの安全を見守る活動の充実。

◆ 富里市の子育て環境（加重平均値）【就学前保護者】



（回答者総数：776人、単位：点）